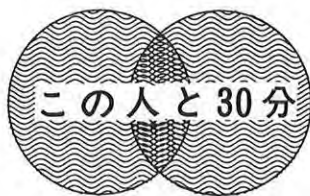


# 風刺とユーモアに生きる

漫画家 那須良輔



このコーナーは県出身者で各界のトップとして活躍しておられる方々を紹介するとともに、県政への提言などをお聞きするものです。

鎌倉市扇ヶ谷（おおぎがやつ）といえば山手の閑静な住宅街。その一角にある那須さんのお宅にお伺いした。木戸をくぐるとご自慢の晚白柚がみことな玉をつけている。庭続きの山には鎌倉時代の武器庫であったという窟（いわや）があって、林の中をヒヨツグミなどが鳴きわたる。「

ここにいと球磨の山の中にいるような気がする」という那須さん。自然やふるさとを本当に大切にしている人のように思えた。

いうまでもないが、那須さんは横山泰三、近藤日出造氏と共に政治漫画界の三羽ガラスとして知られ、鋭い風刺とユーモアで人気を集めている。気さくで、小鳥を愛し、花を育てるなどやさしい人柄の反面、「威張るヤツには徹底的に反抗する」と反骨精神も旺盛。ことしは年男でもあり一層の活躍が期待される。球磨郡湯前町出身。五十九歳。

## 政治は幸・不幸の根源

○政治漫画を書かれるようになったきっかけから……。

小さい時から絵が好きでね。画家になろうと思って上京したんですよ。随分、苦労もしたんですけど……。昭和九年頃だったかなあ「日本少年」という雑誌がありましてね。アルバイトでその油絵を書いたりしてね。それから戦争を経験したわけですが、政治というものが、いろんな面人間を幸せにしたり、不幸におとし入れたりする根源だという気がしてきてね。新聞の報道にも興味があって、ひとつ風刺というものをやってやろうと思っただけですよ。それと、昭和十五年頃ちよつと戦地から帰ってきたんですけど、近藤日出造が「漫画」という雑誌を出したもんだから、仲間を盛り立てて書いてね。その時政治漫画書けって言うんで書いてみた。それがまあ政治漫画を書き始めたきっかけですよ。

○戦争はどちらへ？

昭和十二年の蘆溝橋事件の時の召集で、ずっと中国ですよ。初めは輻重輸卒（しちょうゆそつ）だったけど、写真図が書けるもんだから、野砲隊の観測にまわされてね。それでもちよつとも上げてくれなかったなあ。八年いて上等兵なんだ



から（笑）。上官に対してもあまりいい兵隊じゃなかったんですよ。とにかく威張る奴には必ず反抗してたからね（笑）。それから戦争の宣伝ビラを書くのに漢口にあった旅団司令部にとられた。宣伝ビラ書いたのは僕が初めてだと思えますよ。それから満州の七三七野砲連隊にいたんだけど、漢口の頭の上官だった桜井中佐という人が、少将になって陸軍省の兵務局長になっていたもんだか、寒いからもう帰してくれて手紙を書いたんですよ（笑）。そしたらしばらくして関東軍司令部転属を命ずという通知がきてね。広報作戦参謀部という特務機関みたいなところが最後でしたよ。むこうに残ったと思ったらいいことになった。随分危ない目にもあったし……。

## わかっていた日本の敗戦

○戦争秘話のようなものは？

僕は日本が負けることを知ってましたね。宣撫工作とか謀略活動のために機密を聞いていましたから……。いまはみんなロシアが裏切ったなんて言ってるけど、僕はそれを言えないんだ。なぜかという日本が先に手を出すはずだったんだから。沿海州一帯を占領する作戦のもとに僕は動いていたんだ。あそこ

を占領して、ハバロフスクに関東軍司令部を置く。民間に対する宣撫音楽にはハルピンの交響楽団を使う。新聞社はいまの毎日新聞の支局を置くというようないろんな計画ができていたんだ。どっちがさきに手を出すかということだけでしたね。だからロシアがあとから進入してきたって、ああそうかと思うより仕方ないんだ。

それからもう忘れちゃったけど、ロシア語の教育を毎日一時間ずつ受けましたよ。いつも外蒙の国境線に出るでしよう。蒙古の遊牧の民にビラを渡すとか、物資をむこうへ持ち込むとか。宣撫工作として蒙古人に砂糖とかお茶をタダでやっていただけで、それがなくなるとむこうもすぐわかるんですよ。日本もだんだん物がなくなってきたって（笑）。僕は仕事で仕事だったし卒直な批判をしてみましたね。軍の場合は、そういうのが表に出らんけど……。

## 純粹さと激しさ

○政治漫画を書くコツといえますか、その辺のことを……。

政治に対する批判というか、常にあまり大人になり過ぎてはダメなんだ。何か常にバツとぶつつけるような気性がな

ければ書けないんだよ。どうせ自民党が天下とってんだから黙ってりゃいいんだなんて……いわば悪い意味の悟りだな。そうになったらおしまいだよ。気持の上で批判精神というか、激しい気性が続く限り政治漫画を書きますよ。

それから、政治漫画を発表する新聞社の態度そのものにも僕らは不満があるんだ。外国の新聞は、これはと思う漫画がある。一面にバツと大きく持ってきたりね。大変なスペースをさいて、固定させないんだ。ニューヨークタイムズなんか世界中の漫画を組んでみたりね。そういうことを日本の新聞はやらんでですよ。吉田内閣の二次か三次位まではそれをやったんだけど……最近朝日の泰ちゃん（の型）はまっぴら……。

○いま、毎日グラフにお書きになっている「思い出のスケッチブックから」というのは肌合いが違うといえますか、大変夢が……。

あれね、ああいう純粹さがあるから政治漫画が書けるんですよ。ああいう面が常にあって自然を大事にしたい。自然の美しさを感じつつ、これは大事だと思うから、片一方ではそれが政治にバツと出てる。だからちよつと見ただけでは、えらく違うと思うでしょう。逆に、私がああ楽しさを大事にしたから政治とい

うものを大事にしてもいいともいえますよ。

最近、林野庁がでたらめに山をこわしてる。国が売り喰いしてる。民間の破壊より、それが一番こわいよ。第一、さもしいよ。林野庁にそう言うよ、ごもつちやつたよ（笑）。役人というのは、その点うまいね。さからわないよ（笑）。球磨川にしてもえらく変わっちゃって、田舎に帰ってもしゃくにさわってしようがない。やっぱり自分の大事にしてる夢をこわされたくないからね。だからあれは自分の夢を大事にしてるもんなですよ。

## 自然に帰れ

○先生の本質的なものでもあるわけですね。

そう。花を大事にしたり、小鳥を好きになったりするの、人間の一番大事なところだと思っただけですよ。最近よく、子供たちがテレビの前にかじりついて、チヨコレートなんかしゃぶってる。柿の実も子供たちが要求しなくなってる。柿の方々に残ってる。何故かという、柿の第一、木にも登れなくなってる。だから